

たこうしき 多項式

1 導入

多項式で最も重要なのは、ただの式としてではなく、「数を入れると値が返る対象」として見ることです。この見方を持つと、「0にする数を見つける」「因数分解する」「係数と解を結ぶ」という3つの話題が、ばらばらではなく1本の流れになります。

2 用語と定義

多項式とは、 $a_n x^n + a_{n-1} x^{n-1} + \dots + a_0$ のように、 x の非負の整数乗だけで作られる式です。

根または解とは、 $P(\alpha) = 0$ を満たす数 α のことです。

因数とは、ある多項式を割り切る式です。 $P(x) = (x - \alpha)Q(x)$ と書けるなら、 $x - \alpha$ は因数です。

3 方針

多項式では、「0になる点を見ると構造が見える」という方針を取ります。なぜなら、 $P(\alpha) = 0$ という事実
は、 $x - \alpha$ という因子が潜んでいることを示唆するからです。

4 直感的な説明

4.1 1. 関数としての見方

たとえば $P(x) = x^2 - 5x + 6$ は、文字の列ではなく「 x を入れると値が決まる機械」です。そこで $x = 2$ や $x = 3$ を入れて0になるなら、その機械には「2で止まる」「3で止まる」という特別な点がある、と見られます。

4.2 2. いろいろな見方

• 代数的な見方:

0にする数を見つければ、因数分解が進みます。

• 関数的な見方:

根は「値が0になる入力」です。

• 方程式の見方:

解を直接全部求めなくても、和や積のような対称な量は係数から読めます。

5 厳密な説明

5.1 1. 根と因数の対応

$$P(\alpha) = 0$$

なら、 $P(x)$ は $x - \alpha$ で割り切れます。したがって

$$P(\alpha) = 0 \Rightarrow P(x) = (x - \alpha)Q(x)$$

です。

たとえば $P(x) = x^2 - 5x + 6$ では

$$P(2) = 0, \quad P(3) = 0$$

なので

$$P(x) = (x - 2)(x - 3)$$

と因数分解できます。

5.2 2. 係数と解のつながり

二次式

$$ax^2 + bx + c$$

が

$$a(x - \alpha)(x - \beta)$$

と書けるとします。これを展開すると

$$a(x - \alpha)(x - \beta) = a(x^2 - (\alpha + \beta)x + \alpha\beta)$$

です。したがって係数比較により

$$\alpha + \beta = -\frac{b}{a}, \quad \alpha\beta = \frac{c}{a}$$

を得ます。

5.3 3. 別の説明

対称式の立場から見ると、ここで見えているのは個々の解そのものではなく、 $\alpha + \beta$ と $\alpha\beta$ です。つまり係数は、解を1つずつ記録しているのではなく、入れ替えに依存しない量を記録しています。

6 どこまで成り立つか

根と因数の対応は基本的ですが、どの数の範囲で考えるかは重要です。たとえば $x^2 + 1$ は実数では0になりませんが、複素数では根を持ちます。

7 最終形

多項式では、まず

$$P(\alpha) = 0 \Rightarrow x - \alpha \text{ が因数になる}$$

が出发点です。

二次式 $ax^2 + bx + c$ の解を α, β とすると

$$\alpha + \beta = -\frac{b}{a},$$

$$\alpha\beta = \frac{c}{a}$$

です。

8 一言でいうと

- 0 にする数を見つけると、式の構造が見えます。
- 多項式は、解と因数分解を往復して考えます。
- 係数は、解の和や積のような対称な情報を運んでいます。

9 関連リンク

関連講義・関連ノート

→ [講義](#) [対称式](#) [lecture](#) [math](#) [algebra](#)
<https://study.bem130.com/lecture/math/algebra/対称式-講義/>

→ [講義](#) [二次方程式の解の公式](#) [lecture](#) [math](#) [algebra](#)
<https://study.bem130.com/lecture/math/algebra/二次方程式の解の公式-講義/>

元の解答

なし

スキャン画像

なし